

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	令和元年8月8日
【四半期会計期間】	第18期第2四半期（自平成31年4月1日至令和元年6月30日）
【会社名】	株式会社トーア紡コーポレーション
【英訳名】	Toabo Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 長井 渡
【本店の所在の場所】	大阪府中央区城見一丁目2番27号 クリスタルタワー18階
【電話番号】	大阪（06）7178-1151
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営管理本部副本部長 近江 学
【最寄りの連絡場所】	大阪府中央区城見一丁目2番27号 クリスタルタワー18階
【電話番号】	大阪（06）7178-1158
【事務連絡者氏名】	執行役員 経営管理本部副本部長 近江 学
【縦覧に供する場所】	株式会社トーア紡コーポレーション 東京支店 （東京都中央区日本橋小伝馬町14番7号 アクサ小伝馬町ビル4階） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第17期 第2四半期 連結累計期間	第18期 第2四半期 連結累計期間	第17期
会計期間	自平成30年1月1日 至平成30年6月30日	自平成31年1月1日 至令和元年6月30日	自平成30年1月1日 至平成30年12月31日
売上高 (百万円)	9,569	9,413	19,374
経常利益 (百万円)	193	145	335
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	91	52	248
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	133	13	335
純資産額 (百万円)	11,352	10,958	11,150
総資産額 (百万円)	33,378	32,825	31,266
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	10.24	5.87	27.89
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	33.99	33.36	35.64
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,788	1,297	126
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	142	271	62
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (百万円)	1,517	1,583	407
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	1,371	1,278	1,270

回次	第17期 第2四半期 連結会計期間	第18期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成30年4月1日 至平成30年6月30日	自平成31年4月1日 至令和元年6月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.96	5.79

(注) 1. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しているものの、長期化する米中貿易摩擦や中東情勢の緊張の高まりなどにより、世界経済の減速懸念が強まっております。

このような状況のもと、当社グループは市場ニーズを先取りする高付加価値・高品質商品を提供する「暮らしと社会の明日を紡ぐ企業」として、競争力の強化と収益性の向上に取り組んでまいりました。

前年は主力事業である衣料事業が、原材料価格の高騰により大幅な減益となりましたが、販売価格の改善により収益力回復の兆しは見えつつあります。しかしながら、前年同期と比較したグループ全体の業績は、不動産事業のスキーム変更による一時的な収益の減少や、米中貿易摩擦の影響によるエレクトロニクス事業の輸出減少などが響き、減収減益となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は9,413百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益は182百万円（前年同期比15.5%減）、経常利益は145百万円（前年同期比24.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は52百万円（前年同期比42.7%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

[衣料事業]

衣料事業は、各種繊維を原料とする衣料用素材の製造および販売を行っております。

毛糸部門は、価格改定を行い利益率は改善しましたが、市況が低迷しており減収となりました。

ユニフォーム部門のスクール向け制服素材は、新規モデルチェンジ校の受注が前年並みに推移したものの、原料高により利益率が低下し減益となりました。一方、企業向けユニフォームは、新規案件の獲得件数が伸びず、減収減益となりました。また、官公庁向けは、前年のような大口案件がなく減収となりました。

テキスタイル部門は、郊外量販店向けメンズ素材は前年並みの受注量でしたが、経費削減が寄与し、増益となりました。

この結果、衣料事業は、売上高3,850百万円（前年同期比5.9%減）、営業利益17百万円（前年同期は営業損失0百万円）となりました。

[インテリア産業資材事業]

インテリア産業資材事業は、自動車用内装材、住宅建材・排水処理資材・土木資材・緑化資材などさまざまな用途の産業用資材、インテリア関連製品、オレフィン系短繊維の製造および販売を行っております。

ポリプロファイバー部門は、住宅外壁材用は堅調に推移しましたが、東京ビッグサイトなどの展示会場がオリンピックプレス用に閉鎖されるため、展示会カーペットなどの床材用が減産となりました。また、車両向け原綿の受注が在庫調整もあり低調で、減収減益となりました。

カーペット部門は、ホテル関連物件など商業施設向けとダストコントロールマット向けは堅調に推移し、住宅用途の需要も落ちることなく前年並みに推移しました。

不織布部門は、緑化資材・防草資材・土木関連は堅調に推移しましたが、寝装関連が低調のため減収となりました。

特殊繊維部門は、金属繊維が低調でしたが、カーボン繊維が需要も多く好調に推移したため前年並みとなりました。

自動車内装材部門は、主力の軽自動車、小型自動車、マイナーチェンジしたハイブリッド車が堅調に販売を維持しました。また、新規立ち上がりのミニバンタイプの車も順調に受注し増収となりましたが、採算面では引き続き厳しい状況で、更なる原価改善を推進します。

自動車内装材製造販売の中国子会社は、新規受注車の立ち上がりもあり増収となりました。

この結果、インテリア産業資材事業は、売上高3,571百万円（前年同期比4.7%増）、営業利益106百万円（前年同期比9.1%増）となりました。

[エレクトロニクス事業]

エレクトロニクス事業は、半導体・電子機器の製造および販売を行っております。

米中貿易摩擦により産業機器関連の取引先からの受注が減少したことや、家電業界の回復の遅れが影響し、売上高867百万円（前年同期比13.0%減）、営業利益1百万円（前年同期比92.3%減）となりました。

[ファインケミカル事業]

ファインケミカル事業は、ヘルスケア関連薬品、工業用薬品の製造および販売を行っており、医薬品原体の受注倍増と自動車部材向けの機能性材料が70%増と大幅に伸長、加えて既存の工業用薬品も前年度からの好調を継続した結果、売上高617百万円（前年同期比30.1%増）、営業利益88百万円（前年同期比36.0%増）となりました。

[不動産事業]

不動産事業は、郊外型ショッピングセンター・オフィスビル等の賃貸を行っております。

今期は九州にあるショッピングセンターがリニューアルオープンし収益に貢献しておりますが、主要なショッピングセンターがリニューアル工事中であり、一時的に収益が減少しました。今秋にはオープンし、収益も改善していく予定です。

今期はその移行期間の為、売上高369百万円（前年同期比5.1%減）、営業利益226百万円（前年同期比2.7%減）となりました。

[その他]

その他の事業は、自動車学校の運営、ヘルスケア商品の販売などを行っております。

自動車教習事業は、入校生数減少により減収減益となりました。ヘルスケア事業は、中国向けフコイダンサプリメントの販売減少により、減収となりました。

この結果、その他の事業全体の売上高は137百万円（前年同期比33.1%減）、営業損失28百万円（前年同期は営業損失5百万円）となりました。

財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比1,558百万円増加し、32,825百万円となりました。その主な要因は、電子記録債権、商品及び製品および受取手形及び売掛金の増加によるものであります。

負債は、前連結会計年度末比1,751百万円増加し、21,867百万円となりました。その主な要因は、長期借入金の増加および短期借入金の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末比192百万円減少し、10,958百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金および為替換算調整勘定の減少によるものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度末との比較・分析を行っております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ8百万円増加し、1,278百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益125百万円を計上しておりますが、主な増加要因としては非資金的支出費用である減価償却費181百万円及び仕入債務の増加49百万円、主な減少要因としては売上債権の増加1,187百万円およびたな卸資産の増加377百万円等により、営業活動による資金は1,297百万円（前年同期比27.4%減）の支出となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資有価証券の取得による支出148百万円及び有形固定資産の取得による支出127百万円等により、投資活動による資金は271百万円（前年同期は142百万円の獲得）の使用となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入れによる収入3,094百万円および長期借入金の返済による支出1,653百万円、短期借入金の純増加額470百万円および社債の償還による支出150百万円等により、財務活動による資金は1,583百万円（前年同期比4.3%増）の獲得となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費は56百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,300,000
計	14,300,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (令和元年6月30日)	提出日現在発行数 (株) (令和元年8月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,940,448	8,940,448	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	8,940,448	8,940,448	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成31年4月1日～ 令和元年6月30日	-	8,940,448	-	3,940	-	-

(5) 【大株主の状況】

令和元年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	724	8.12
中間 信幸	鹿児島県鹿児島市	340	3.81
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	338	3.79
双日株式会社	東京都千代田区内幸町2丁目1-1	271	3.03
中間 高子	鹿児島県鹿児島市	243	2.72
トーア紡グループ従業員持株会	大阪市中央区城見1丁目2-27 クリスタルタワー18階	213	2.39
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	188	2.11
株式会社三洋航空サービス	神戸市東灘区岡本1丁目7-8	180	2.01
浅沼 伴自	横浜市栄区	159	1.79
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4-5 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	114	1.27
計	-	2,773	31.10

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

令和元年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 21,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,902,100	89,021	-
単元未満株式	普通株式 16,648	-	-
発行済株式総数	8,940,448	-	-
総株主の議決権	-	89,021	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が800株あります。

なお、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数8個が含まれております。

【自己株式等】

令和元年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 株式数の割合 (%)
(自己保有株式) 株)トーア紡コーポ レーション	大阪市中央区城見 一丁目2番27号	21,700	-	21,700	0.24
計	-	21,700	-	21,700	0.24

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成31年4月1日から令和元年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成31年1月1日から令和元年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、PWC京都監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,594	1,594
受取手形及び売掛金	3,266	3,437
電子記録債権	5	1,006
商品及び製品	1,815	2,036
仕掛品	593	735
原材料及び貯蔵品	1,645	1,649
その他	192	133
貸倒引当金	30	33
流動資産合計	9,083	10,560
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,721	1,693
機械装置及び運搬具(純額)	621	561
土地	17,051	17,051
リース資産(純額)	59	57
建設仮勘定	19	73
その他(純額)	79	77
有形固定資産合計	19,552	19,514
無形固定資産		
その他	140	126
無形固定資産合計	140	126
投資その他の資産		
投資有価証券	1,787	1,940
繰延税金資産	18	19
その他	726	702
貸倒引当金	41	39
投資その他の資産合計	2,490	2,623
固定資産合計	22,183	22,264
資産合計	31,266	32,825

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,593	1,639
短期借入金	4,309	5,074
1年内償還予定の社債	250	200
未払法人税等	35	60
その他	886	760
流動負債合計	7,075	7,734
固定負債		
社債	200	100
長期借入金	6,614	7,767
繰延税金負債	4,400	4,400
退職給付に係る負債	1,161	1,193
長期預り敷金保証金	616	609
環境対策引当金	-	14
資産除去債務	41	41
その他	7	6
固定負債合計	13,040	14,132
負債合計	20,116	21,867
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,940	3,940
資本剰余金	3,570	3,570
利益剰余金	2,870	2,744
自己株式	19	19
株主資本合計	10,361	10,235
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	404	403
繰延ヘッジ損益	7	8
為替換算調整勘定	383	318
その他の包括利益累計額合計	781	714
非支配株主持分	7	7
純資産合計	11,150	10,958
負債純資産合計	31,266	32,825

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年 6月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成31年 1月 1日 至 令和元年 6月30日)
売上高	9,569	9,413
売上原価	7,905	7,795
売上総利益	1,664	1,617
販売費及び一般管理費	1,148	1,143
営業利益	215	182
営業外収益		
受取利息	4	3
受取配当金	30	31
その他	26	15
営業外収益合計	60	50
営業外費用		
支払利息	50	45
持分法による投資損失	2	2
為替差損	8	9
その他	20	28
営業外費用合計	82	86
経常利益	193	145
特別利益		
固定資産売却益	0	0
国庫補助金	-	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産廃棄損	6	4
固定資産売却損	0	-
移転補償金	3	-
災害による損失	-	1
環境対策引当金繰入額	-	14
固定資産圧縮損	-	0
特別損失合計	10	20
税金等調整前四半期純利益	183	125
法人税、住民税及び事業税	29	76
法人税等調整額	62	3
法人税等合計	91	73
四半期純利益	91	52
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	91	52

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)
四半期純利益	91	52
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	152	0
繰延ヘッジ損益	8	1
為替換算調整勘定	68	54
持分法適用会社に対する持分相当額	12	10
その他の包括利益合計	225	66
四半期包括利益	133	13
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	133	14
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	183	125
減価償却費	165	181
のれん償却額	0	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	31	32
貸倒引当金の増減額(は減少)	13	2
環境対策引当金の増減額(は減少)	-	14
受取利息及び受取配当金	34	34
支払利息	50	45
固定資産廃棄損	6	4
固定資産売却損益(は益)	0	0
固定資産圧縮損	-	0
補助金収入	-	0
売上債権の増減額(は増加)	1,587	1,187
たな卸資産の増減額(は増加)	295	377
仕入債務の増減額(は減少)	204	49
長期預り敷金保証金の増減額(は減少)	326	25
その他	61	117
小計	1,674	1,285
利息及び配当金の受取額	36	32
利息の支払額	50	45
法人税等の支払額	99	55
法人税等の還付額	0	57
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,788	1,297
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	0	0
定期預金の払戻による収入	33	-
投資有価証券の取得による支出	5	148
関係会社出資金の売却による収入	5	-
出資金の払込による支出	13	-
有形固定資産の取得による支出	212	127
有形固定資産の売却による収入	444	0
無形固定資産の取得による支出	80	0
資産除去債務の履行による支出	53	-
貸付金の回収による収入	30	6
補助金の受取額	-	6
その他	4	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	142	271

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	395	470
長期借入れによる収入	3,083	3,094
長期借入金の返済による支出	1,551	1,653
社債の償還による支出	230	150
ファイナンス・リース債務の返済による支出	0	0
配当金の支払額	177	176
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,517	1,583
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	6
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	143	8
現金及び現金同等物の期首残高	1,515	1,270
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,371	1,278

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日) 等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しています。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成30年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
N C Works, Inc.	13百万円	13百万円
上記の債務保証は、富雅樂企業股份有限公司による債務保証を当社子会社が再保証したものであります。		

2. 受取手形等割引高

	前連結会計年度 (平成30年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
受取手形割引高	791百万円	- 百万円
電子記録債権割引高	339	-

3. 四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、当第2四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日のため、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

当第2四半期連結会計期間末日の満期手形等の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和元年6月30日)
受取手形	- 百万円	154百万円
電子記録債権	-	13

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)
給与・雑給	426百万円	439百万円
運賃・保管料	208	214
賞与	91	90
退職給付費用	40	29
貸倒引当金繰入額	1	2
見本費	59	55

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)
現金及び預金勘定	1,820百万円	1,594百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	448	316
現金及び現金同等物	1,371	1,278

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年3月29日 定時株主総会	普通株式	178	20	平成29年12月31日	平成30年3月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成31年1月1日至令和元年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成31年3月28日 定時株主総会	普通株式	178	20	平成30年12月31日	平成31年3月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成30年1月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	衣料事業	インテリ ア産業資 材事業	エレク トロニク ス事業	ファイ ンケミカ ル事業	不動産 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	4,092	3,410	996	474	388	9,363	206	9,569	-	9,569
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2	6	14	-	8	33	168	201	201	-
計	4,095	3,417	1,011	474	397	9,397	374	9,771	201	9,569
セグメント 利益又は損 失()	0	97	23	65	232	418	5	413	198	215

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである自動車教習事業、新規事業等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失の調整額 198百万円には、セグメント間取引消去3百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 201百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成31年1月1日至令和元年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	衣料事業	インテリア 産業資 材事業	エレクトロニク ス事業	ファイン ケミカル 事業	不動産 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	3,850	3,571	867	617	369	9,275	137	9,413	-	9,413
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	9	6	0	-	8	25	146	172	172	-
計	3,859	3,578	867	617	377	9,301	284	9,585	172	9,413
セグメント 利益又は損 失()	17	106	1	88	226	440	28	412	230	182

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである自動車教習事業、ヘルスケア事業等が含まれております。

2. セグメント利益又は損失の調整額 230百万円には、セグメント間取引消去9百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 240百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券は、企業集団の事業の運営において重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

当第2四半期連結会計期間末に係るデリバティブ取引については、全てヘッジ会計が適用されているため記載を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	10円24銭	5円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	91	52
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	91	52
普通株式の期中平均株式数(千株)	8,918	8,918

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年8月8日

株式会社トーア紡コーポレーション
取締役会 御中

P w C 京都監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高井 晶 治 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 田村 透 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トーア紡コーポレーションの平成31年1月1日から令和元年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成31年4月1日から令和元年6月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成31年1月1日から令和元年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トーア紡コーポレーション及び連結子会社の令和元年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。